

折り紙展示

折り紙で彩る 源氏物語の世界

～千年の時空を超えて
よみがえる雅な平安絵巻～

2009年

5月2日(土)～7月2日(木)

9時～21時

エセナおおた 2階 談話コーナー

無料

源氏物語の登場人物の女君たちの解説とともに、折り紙で平安絵巻を表現します。

歴史を超えて、今なお私たちを魅了する源氏物語を新しい感覚で表現しました。

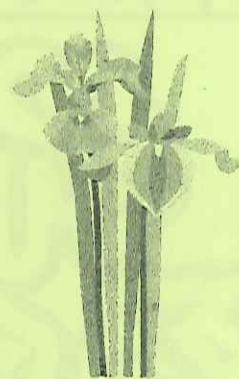
どうぞお気軽にお立ち寄りください。

主催:大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」 共催:大田区

この事業はNPO法人男女共同参画おおたが区の補助を受けて実施しています。

平安時代の男性・女性

この時代の結婚は一夫多妻で、夫は自分の家から妻の家に通い婚でした。妻の家では婿が決まると、その衣装から、来たときの食事から、役人ならそこで必要な交際費や上役への付け届けまで一切合財面倒をみななければいけません。婿は家柄がよくて、将来出世する才覚がなければなりません。人柄も大切ですが、学問以外に興味も身につけていないと馬鹿にされます。楽器の一つくらい演奏できるのも男のたしなみでした。

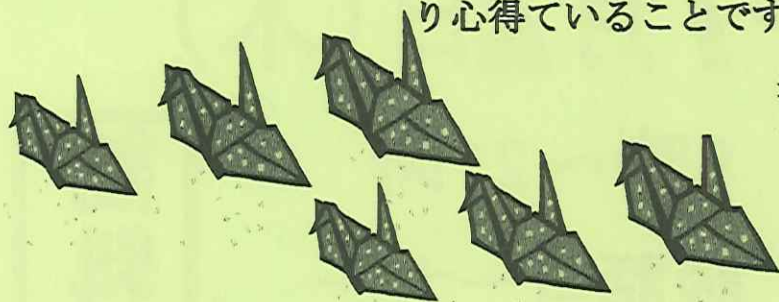


高級貴族の姫君と呼ばれる娘は、不器量であろうが何であろうが、女ならいつでも後宮にあがれるよう、小さい時から教養をつけさせられます。貴族の家庭では、子供は妻が産みっぱなしで乳も与えません。しかるべき乳母を雇って、乳母が乳を与え、育てます。(中略)



姫君の教養というのは、和歌を作れること。「古今集」などの和歌を覚えること。それを書く字を習うこと。手紙はすべて和歌に託して書くのです。恋文は和歌です。その他音楽を習得します。琴、琵琶、笛などの楽器を一つ堪能でないといけません。香道などもわきまえていて、ブレンドの仕方も知っているのが教養が高いとされました。裁縫も、染色も一通り心得ていることです。

瀬戸内寂聴「源氏物語の女性たち」



●お問い合わせ先

〒143-0016

大田区大森北4-16-4

大田区立男女平等推進センター

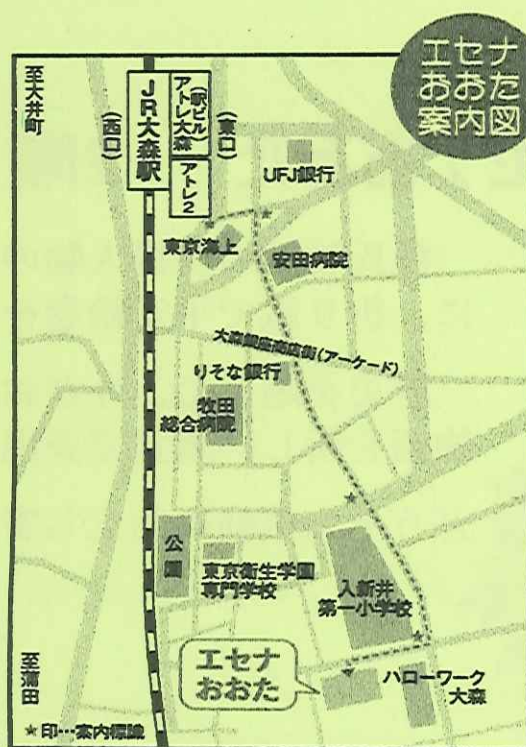
「エセナおおた」

電話 03-3766-6587

FAX 03-5764-0604

HP: <http://www.escenaota.jp>

e-mail: escena@escenaota.jp



★印…案内標識
●JR大森駅から徒歩8分。駐車場はありません。